

令和5年度 第2回はんだ環境パートナーシップ会議録

開催日時	令和5年12月19日(木) 13時00分～14時30分				
開催場所	半田市リサイクルセンター2階 小会議室				
会議次第	1. あいさつ 2. 議事 (1)「半田市民討議会」の実施報告について (2)半田市の環境の取組について 3. その他				
出席委員 ※敬称略	会長	千頭 聡	副会長	森下 久子	
	委員	山田 尚登	森田 邦裕	小川 彰子	
		竹内 正治	安達 典孝	牧野 純子	
		榊原 靖	川島 祥子		
欠席委員 ※敬称略		神戸 繁明			
出席職員	事務局	環境課長	太田 敦之		
		副主幹	森下 直孝	主査	山田 隆康
		主査	井戸 敏史	主事	片山 高也
次第	<p style="text-align: center;">議 事 概 要</p> 各委員の発言は、市民・団体の代表としての発言ではなく、あくまで個人としての発言です。				
1. あいさつ	-環境課長及び会長あいさつ- (略)				
2. 議事	<p style="text-align: center;">議事(1)「半田市民討議会」の実施報告について</p> <p>(会長) 事務局より説明を願う</p> <p>(事務局) 資料①「半田市民討議会」の実施報告です。 令和5年11月に、本市で初めての市民討議会が開催されました。今回はゼロカーボンテーマに議論が行われましたので、ご報告させていただきます。 市民討議会は、無作為抽出で選ばれた市民が、討議テーマに関する必要な情報提供を受けて、地域課題の解決策などを討議のうえ、意見を集約し提言として取りまとめ、市政に反映していく市民参画の仕組みであり、広聴の一環として今年度初めて本市で行われることとなりました。</p>				

テーマは、地球温暖化防止に向けた、温室効果ガス実質排出量ゼロを目指した脱炭素の取組(ゼロカーボン)についてということで、参加者一人一人にできることを考えました。

11月4日に事前説明会、25日に討議会が開催され、事前勉強会では、有識者として、千頭先生に社会におけるゼロカーボンの必要性や課題など抗議いただき、行政の立場で環境課片山が半田市における取組と課題を説明しました。

25日当時の状況ですが、20代から60代までの参加者44名が8グループに分かれて話し合いを行いました。

事前に知識を得たこともあり、当日は各グループで盛大に意見交換がされていました。

資料裏面になりますが、当日の写真となります。

グループで出た意見の一例を記載させていただいております。

半田市が取り組んでいることを知らなかったという意見もいただいており、情報発信は頑張らないといけないなと思った所であります。

今後は、提言書として取りまとめられ市へ提出され、提言内容を市の中で議論し、取り組めることは取り組んでいくという流れとなります。

事務局の説明は以上です。

(会長)

質問や感想があればお願いしたい。

(委員)

無作為抽出というのは面白い取組であると感じた。資料内の「見える化」を促す項目の中に「ゴミ使用量」という言葉が使われているが、「ゴミ排出量」に改めた方が良いのではないか。

(事務局)

「ゴミ排出量」に改めます。

(委員)

討議会での議論を受けて、今後何らかのアクションプランを設定するのか。

(事務局)

今後の流れとしては、討議会の実行委員会が市に対する提言を取りまとめ、市へ提出します。この提言を受け、市のアクションを検討します。

(会長)

実行委員は主に JC の方がコアメンバーを担っています。

委員の発言の趣旨は非常に重要で、提言を受け、それを誰が担っていくかというところが紐づいていないといけない。

(事務局)

今後は市内部での検討となるが、幹部会議や政策調整会議で検討するというところまでは決まっている。

(委員)

市民が議論し、提言までしたのであれば、その後に繋げてほしいと思う。

(会長)

市民討議会に参加した市民の中で、このパートナーシップ会議に参加したいと思ってくれる人が現れると嬉しい。

(委員)

面白い取組と感じた。せっかく提言が出されたのであれば、一部の方だけに留まってしまうのは勿体無い。市民からこのような意見が出たということ、どこかで開示するのか。市民からこのような提言・提案を受けたということをオープンにすることで、半田市としてしっかり取り組んでいく姿勢を見せる必要がある。そうした方が、市としても前に進みやすいのではないか。

(事務局)

提言の内容については、市報やホームページで公表していくものと考えている。

(会長)

提言がまとまったら、このパートナーシップでも共有するようにしてほしい。

(事務局)

提言は年明けにまとまると聞いている。

(会長)

マスコミは来ていたか。

(事務局)

新聞社が取材に来ていた。

(会長)

議題 1 については以上で終了とする。

次に議題 2「半田市の環境の取組」について事務局から説明を願う。

(事務局)

議題 2「半田市の環境の取組」について、令和 6 年度に新たに実施する二つの事業についてご意見をいただきたく議題とさせていただきます。

1 つ目、資料②— 1 環境保全コンテストです。

前回、ポスターコンクールに代わる案として、いろいろな意見をお伺いする中、標語をテーマに環境保全コンテストとして開催したいとするものです。

対象は、これまでの小中学生から市民全般に拡充しています。

応募方法はインターネットのほか紙媒体での応募としており、自然観察会や環境学習応募時に提出を必須とするなど、たくさんの標語が集まるよう努めてまいります。

集まった標語については、来年度のパートナーシップ会議で審査をしていただく予定です。

続きまして、資料②— 2「脱炭素チャレンジ事業」です。

この事業は、前回の会議で委員の皆様からいただいた家庭用 CO2 排出量の調査に、市民討議会でいただいた意見を融合させて考えた事業となります。

市民一人ひとりが脱炭素につながる行動を考え、市全体で気運が高まることによりゼロカーボンにつながる行動が積極的に行われるよう、インセンティブを導入した、脱炭素につながる行動にみんなで取り組む「脱炭素チャレンジ事業」を行いたいとするものです。

市民には脱炭素につながる行動を行ってもらい、前後の変化を体感してもらい

です。チャレンジした方には報酬としてクオカードを記念品として渡す予定をしています。

また、この中で、家庭での電気ガスガソリンの使用量を報告してもらい、家庭におけるCO2調査も兼ねて行います。

対象は、統計学上必要とされている400件を目標に実施していきたいと考えています。募集は、市報、市ホームページ、市LINEを通じて啓発していきます。

事務局の説明は以上です。

(会長)

事務局説明は終わりました。

電気とガスとガソリンの使用量を提出してもらおうということで、何かコメントや提案などあればどうぞ。

まずは環境保全コンテストの方で、何かあるか。

小学生にとって、標語を作るというのは馴染みのあるものなのか。

(委員)

学校では、人権に関する標語を作らせたりするが、標語を作るのは高学年にならないと難しいかもしれない。

(委員)

取りまとめや審査にそこまで時間がかかるわけではないので、9月末に締め切って10月に表彰という形が良いのではないか。

(会長)

来年度のパートナーシップ会議は全何回を予定しているか。

(事務局)

3回を予定している。9月に開催を予定しているため、その会議で審査いただけるよう、締め切りを前倒すなど検討したい。

(会長)

小中学生から募るのであれば、8月末を期限としてはどうか。在学・在勤者は対象外か。

(事務局)

在勤まで含めることで市内企業にも協力依頼ができるので、検討したい。

(委員)

ネット応募だけでなく、南吉記念館や赤レンガ建物などに記入用紙と提出箱を置いて、色々な人に応募してもらってはどうか。

(委員)

標語となると小学 1.2 年生には難しいと思う。親子で考えるという形にすると良い。

(委員)

親子で考えた場合に、小中学生部門で提出するのか、大人部門で提出するのか議論になる。親子で考えるという視点も大事なので、親子部門を作ってはどうか。

また、他のコンクールなどでいつも思うが、誌面の関係などで、大賞や優秀賞しか表に出てこない。応募してもらった作品をもっと表に出せるようにしてはどうか。市報の表紙にずらっとたくさん並べるというのも良いのではないか。

(会長)

ゼミで取り組んだ SDGs カルタの作成では、投票してもらう仕掛けを取り入れた。投票するとなると自分ごとになるため、たくさんの人を巻き込む仕掛けを作れると良い。

(委員)

低学年までの子どもは親子部門での応募にしてはどうか。

(委員)

何歳でも親子の部に応募できる形にすると、例えば 50 歳の子と 80 歳の親による親子作品が出てきて、面白いかもしれない。親子で考えるということが大切であって、意味があることだと思う。

良いものが出てくるのが目的ではなく、考えてもらうことが重要。

(会長)

3 年くらい標語を集めたあとは、カルタを作るために必要な頭文字だけ募集するなどしても良いのではないか。

続いて、「脱炭素チャレンジ」こちらについてはいかがか。

(委員)

電気・ガスはわかるけど、ガソリンの使用量を測るのは難しいのではないかな。走行距離を報告させるようにしてはどうか。

(事務局)

はっきりした数字を集めたいので、走行距離を報告いただくことも検討したい。

(会長)

国のマニュアルでは、自動車の保有率に係数をかけることになっている。そのため、車を持っていると一律で CO2 排出量が算定される。

この取り組みでガソリンの使用量が出せれば、どれだけの CO2 が実際に排出されているかある程度把握できる。CO2 排出量が按分法で算出されてしまうため、市民の頑張りが数字に反映されないという課題を解決したいという思いからの提案だと思う。

(委員)

趣旨は良いと思う。環境問題はテーマが大きすぎるので、家庭における排出量というところに絞り込んで数値化できるとやりがいも出るのではないかな。

一方で、PHEV ならどうか、EV ならどうかという点については考えておく必要がある。

また、この調査の先にあるアウトプットを、尖ったものにできると良い。自分たちの立ち位置を示すためにも、例えば 400 世帯の平均値が県内で何位だったとか、他市町と比較してどうか、ということをお願いしていきたい。

(会長)

知多半島の他市町にも声をかけて、同じチャレンジができると良いのではないかな。

(委員)

電気・ガス・ガソリンと 3 項目示されているが、この 3 つ全てに取り組むということか。案の段階だと思うが、どのように考えているか。使用量をまとめるだけでも大変だと思うが。

(事務局)

過去の使用量については、例えば電気であれば契約されている電力会社の WEB

サービスを使うと一括でダウンロードできたりするので、そういったもので対応いただければと考えている。

実際に省エネにチャレンジしてもらうのは2ヶ月ほどを考えているため、その期間は少しマメに取り組んでいただく必要がある。

(会長)

子どもが家に何人いるかということもかなり大きく影響してくる。細かいやり方は検討していくとして、やる方向で進めましょう。

知多半島の頑張りを愛知県もバックアップしてあげてください。

(会長)

本日の議題は以上なので、ここからは時間の許す限り意見交換の時間としたい。

大府市のパートナーシップ会議を少し紹介するが、大府市は委員が20名くらいいて、みんなでできることを探そうということで進めてきた。川の清掃や外来植物の刈り取りといったことを実施してきた。

半田市のリサイクルセンターは敷地も広く余裕があるため、かつてパートナーシップ会議内に置かれていた推進部会が、引き取ったゴミを綺麗にして、欲しい人に販売する取り組みを実施していた。

(委員)

綺麗に掃除するかしらないかで売れ行きが全く違う。朝も並んで待つ人がいて、かなり人気だった。良いアイデアだったと思う。

(委員)

欲しい人がいるのかなという商品でもどんどん無くなっていく。本や古着などもたくさんあったが、ほとんど無くなった。

こういった取り組みが進むことで、物を捨てる人が減るのではないか。お金の取り扱いが難しいところもあるが、例えば毎月品を変えて開催するのも良いのでは。

気楽に持ってきてもらうためにも、定点で拠点を作れると回り出すと思う。最初だけ市にお手伝いいただけると、市内のリユースが進んでいくのではないか。ゼロカーボンにも繋がる話なので、積極的に検討してはどうか。

(会長)

当時は 20 名ほどの推進部会で実施していたと思うが、こういった取り組みを市民レベルで実施できると良い。敷地も広いので、みんなでビオトープを作ろうとか、全てを市が考えるのではなく、市民の知恵や人脈を活用できると良い。

(委員)

この土地の活用方向性は考えているか。

(事務局)

焼却施設は取り壊し、資源受け入れ施設を一元化して、リサイクル拠点となるストックヤードにする予定。現在の資源受け入れ施設は老朽化のため取り壊す予定をしている。

(委員)

子ども食堂を開いているが、そこでは色々なところから集まった食品や洋服を、必要な方たちへ渡している。必要な場所に必要なものを揃えることができれば、あとはタイミングを合わせるだけである。食品や古着など、寄付をしてもらっても、保管しておく場所が無いということが課題である。サイズや種類に分けて置いておける場所が欲しい。リサイクルセンターが拠点になってくれると良い。

(会長)

市民まつりのステージで、9 人の学生がサステイナブルファッションショーを実施した。古着に対する感覚が昔とは違って、若い世代にとっては所謂ビンテージであり、価値があるもの。

(委員)

バイオガス発電施設とトマト工場を是非見学したい。小学校では 5 年生で SDGs の授業がある。また、家庭科でも SDGs に触れるため、良い勉強になると思う。

(会長)

市内のバイオマス発電施設で作られる電気は 30 万世帯分くらいある。もっと市民に知ってもらえると良い。

(委員)

住友商事のホームページに紹介ビデオが公開されており、自由に見ていただけるようになっている。

(委員)

こうした状況は CO2 を減らそうとみんなが頑張っている中で、他の自治体に対して自慢できることの一つだと思う。

(委員)

知多半田の壁面にサイネージを流すとか、そういったこともできるのではないか。

(事務局)

1点紹介させていただく。一般財団法人 自治体国際化協会（クレア）からの依頼により、日本国内における先進的取り組みとして、ビオぐるファクトリーHANDAをタイで発表させていただくことが決定した。

(会長)

半田市内の取り組みとしてしっかり PR していきたい。

他に何かあるか。

(委員)

直近の話だが、これまで地域に外国籍の方が移り住んでくるということということが無かった。今回、1世帯入居したため、少し戸惑っている。定住する形で、家を建てられて家族で住んでいらっしゃる。家庭ゴミの出し方、捨てる場所など、言葉の障害もあり、我々ではうまく説明ができないと感じている。

半田市では、色々な言語で案内できていると思っているが、そのあたりを少し教えてほしい。

(事務局)

転入した方へは市民課でパンフレットを配付している。ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語のパンフレットを用意しているが、使用されている言語がこの中に無い場合も対応できるよう準備している。

市民協働課においても、多文化共生の取り組みの一環として外国籍市民の対応をさせていただいている。

(委員)

私も現役の区長であるため、色々な国の方がたくさん住んでいるということを実感している。

(会長)

半田市の多文化共生は、ものすごく頑張って色々な施策を持っているので、可能であれば住みはじめた外国籍の方と一緒に市民協働課を尋ねてみてはどうか。例えばブラジルでは地震がほとんど無いので、地震に対する危機感が低かったりする。防災訓練と一緒に参加してもらうなどできると非常に良いと思う。

これにて会議終了。